

平成16年10月14日
農林水産省 生産局

家畜改良増殖目標についての研究会（めん羊・山羊）の概要について

下記のとおり、家畜の改良増殖目標についての研究会（めん羊・山羊）が開催されました。

記

1. 日時

平成16年10月13日（水） 13:30～16:30

2. 場所

東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省本館2階生産局第1会議室

3. 出席者

委員：別紙のとおり

4. 議事概要

研究会の座長に金井委員が選出され、事務局より配付資料の説明が行われた後、意見交換が行われました。委員からの主な発言は以下のとおりでした。

< 共通事項について >

めん山羊の家畜としての位置付けを明確化した上で、今後の改良増殖、生産振興等のあり方を考えるべき。

国内資源を有効利用した改良を行うことは評価できるが、目標がその考えに合致しているのか検討が必要。

データの制約はあるが、だれを（ブリーダー、生産者等）対象とした改良目標なのか分かるようなものとするのが重要。

改良目標の実現のためには種畜の供給体制の整備を考えることが重要。

< めん羊の目標について >

今回の産肉能力の目標は、4ヶ月及び9ヶ月齢時の体重としているが、逆に体重50kgに達するまでの出荷日齢という表記の仕方も考えられ、今後の検討課題とすべき。

改良目標の中に凍結精液の活用を明記したことを評価する。技術的な確立が不十分な点はあるが、海外からの種畜導入が難しくなっている現状では、凍結精液の利用推進は重要。

遺伝率が低く改良効果が出にくい繁殖に関する形質については、表記の方法とともに新たな目標項目についての検討が必要ではないか。

< 山羊の目標について >

乳量と体の大きさには正の相関があり、乳量の増加を目指すに当たっては、飼養管理が容易であれば体の大きさまでこだわる必要はないのではないか。

改良手法の記述において、間性についてはその発現を抑えることは技術的に可能

であり、「制御に努める」と表記すべき。

次回の目標の策定に当たっては、繁殖性の数値目標を加えることも検討すべき。

問い合わせ先

生産局 畜産部 畜産振興課

山本、武久

TEL 03-3502-8111（内線3915、3916）

03-3501-3777（直通）

家畜改良増殖目標についての研究会（めん羊・山羊）出席委員

（五十音順・敬称略）

- 金井 俊男 （財）畜産環境整備機構 副理事長
- 川村 修 国立大学法人 宮崎大学 農学部生物環境科学科 教授
- 国政 二郎 （社）畜産技術協会 監事
- 藤田 優 （独）家畜改良センター-長野牧場 業務課長
- 武藤 浩史 めん羊生産者
- 八巻 邦次 国立大学法人 東北大学大学院
農学研究科資源生物学専攻 助手
- 山田 渥 北海道立畜産試験場特用家畜科長

（計7名）